

## 資料

## エイズ予防に関する大学生の問題意識の調査

— 効果的なエイズ予防プログラムのために —

田 辺 毅 彦  
柴 田 利 男  
大 島 寿美子

## 目 次

- I. はじめに
- II. 調査の方法
  1. 調査対象と手続き
  2. 調査用紙の概要
- III. 結果と考察
  1. 2000年の内閣府調査との比較
  2. 項目ごとの結果内容の分析
    - (1) エイズに関する認識
    - (2) エイズ感染に関する意識について
    - (3) エイズ対策に関する意識について
    - (4) エイズ対策に関する政府に対する要望
- IV. 今後の展望
- V. 謝 辞

## I. はじめに

エイズ(通常「エイズ」と表記される場合、感染と発症の2段階の状態を含んでいるため、HIV/AIDSと記述するのが正確であるが、本論文においては、特に区別を行わない場合この両方の意味を含めて表示する)が初めて1981年にアメリカ合衆国で「発見」されて以来、既に20年以上の歳月が経つ。その間、さまざまな研究や感染防止の努力が行われ、病気についての理解が進み、薬による発症の遅延が可能になってきた。しかしながら、現

時点でも「エイズを完全になおす薬はなく、また完全に予防する方法もまだ開発されておらず、エイズにかかったら必ず死亡する」という厳然たる状況に変化はないとされている。<sup>(1)</sup>

アメリカ合衆国においては、最初エイズは男性同性愛者間の疾患であるとされたが、その後、異性間性的接触や麻薬常習者の汚染注射器再使用なども原因となることがわかり、1990年代半ばには急速に患者数が増加した。これは、1980年代に感染した患者の10年近い潜伏期間後の発症が漸く明らかになった結果と思われる。その後、治療法の進歩や対策の実施が功を奏し、西ヨーロッパ諸国を含めたいわゆる既開発国での感染や発症は減少の傾向にある。これに対して、東ヨーロッパ諸国やアフリカは現在エイズの流行が最も深刻な地域で、特にアフリカでの感染は猖獗を極めており、世界のエイズの7割はアフリカで起こっているともいわれている。<sup>(2)</sup>そして、感染の勢いはアジア諸国にも広がってきており、特に中国とインドの感染は急上昇の傾向にあり、中国の場合2010年にはHIV感染者数が、1000万~1500万人にも上るという推計もある。<sup>(3)</sup>

日本の場合は、1980年代半ばに、治療のために用いていた輸血血液製剤から血友病の患者に大規模なエイズ感染が始まり、その後は

同性および異性間の性的接触感染が増加した。2003年現在の集計では、HIV感染者が640件、AIDS患者が336件と過去最高の件数に上っている。患者数は、他の諸国に比べて相対的に少ないものであるが、HIV感染者は性的接触によるものが83.4%を占めていること、そのうちの男性同性間性的接触が55.6%を占めていること、さらに、若年層(10代後半～20代前半)の異性間性的接触による女性感染者が男性感染者をはるかに上回っていることなどが特徴として挙げられている<sup>(4)</sup>。

このような中で、1987年のいわゆるエイズ・パニック以降、エイズに対する偏見・差別の解消に向けた若年層を対象にした知識の普及、教育・啓蒙活動が行われるようになった。近年もエイズ研究において、男性同性愛者、滞日外国人、セックスワーカーと並んで、若者への予防介入は重点的な課題のひとつとして位置づけられ、小中高の性教育と子供の現実との時期のずれ、コンドーム教育の不足などが示され、教育担当者への支援も提言されている<sup>(5)</sup>。大学における教育プログラムの実施においては、HIV/AIDSに関する知識の向上、および人権・共生意識の向上が認められたが、同時に、感染者に対する忌避感が根強く残ったという報告もあり、エイズに対する特に若者の自覚的な予防行動の長期的な持続は必ずしも成功しているとはいいがたい。以上のような状況を考慮に入れ、エイズ感染の増加が続く現状において、どのような教育プログラムを実施すれば効果的なエイズに対する教育・啓蒙が可能であるのか検討する一連の企画の中で、本学の学生を対象にしてエイズに関する意識調査を行い、その特徴を明らかにすることを目的とした。

なお、この調査結果の一部は、2004年9月24日に行われた「エイズおよび性感染症に関する啓発シンポジウム」の際に参考資料として提供され、10月9～10日の期間、本学の学園祭におけるエイズ予防の展示の一部として

一般向けに展示、配布された。

## II. 調査の方法

1. 調査対象と手続き：北星学園大学学生622名を対象に、2004年(H16)7月12日～17日の期間、さまざまな授業を利用して回答に協力いただいた。
2. 調査用紙の概要：内閣府大臣官房政府広報室によって2000年(H12)12月に実施された、「エイズに関する世論調査」を用いて、ほぼ同内容で調査が行われた。

## III. 結果と考察

### 1. 2000年の内閣府調査との比較

調査結果は、SPSS統計パッケージを用いて統計的に処理され、各質問項目ごとに2000年の内閣府の結果と<sup>(7)</sup>比較された。以下に、設問と回答結果の一覧を示す(表1～表22参照)。

### ■エイズに関する認識についてお伺いします。(単位はすべて%)

問1：エイズの原因となるウイルスをヒト免疫不全ウイルス、HIV(エッチアイブイ)といますが、このウイルスに侵されることにより、健康を保つために必要な身体の抵抗力が壊されてしまう病気があります。このエイズという病気のことを今までに見聞きしたことがありますか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。

表1

	H12(内閣府)	H16(北星大)
ある	96.0	98.6
ない	2.8	0.2
わからない	1.2	1.1

問2：あなたは、エイズ問題についてどの程度関心がありますか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。

エイズ予防に関する大学生の問題意識の調査

表 2

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
非常に関心がある	9.6	8.5
関心がある	51.4	54.8
あまり関心がない	29.2	31.8
関心がない	8.4	1.8
わからない	1.3	2.7

問 3：あなたは、今後、我が国でもエイズ患者が増加していくと思いますか。それともそうは思いませんか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。

表 3

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
非常に増加する	22.6	32.2
やや増加する	58.9	56.6
あまり増加しない	8.4	5.9
ほとんど(全く)増加しない	0.8	0.8
わからない	9.3	4.2

問 3-1：あなたが、増加すると思うのはどのような理由からですか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表 3-1

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
海外との交流が増える	42.1	20.3
日本人の性行動が開放的になっている	64.5	66.6
世界中で増えている	31.4	29.1
予防できない	16.4	8.0
現在ワクチンや治療薬がない	38.7	35.2
エイズ感染の予防知識が乏しい	35.8	51.6
ピル(経口避妊薬)が利用できるようになった	7.9	13.5
対策が十分でない	28.6	42.1
その他	0.8	2.9

問 3-2：あなたが、増加しないと思うのはどのような理由からですか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表 3-2

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
対策がしっかりしている	20.3	1.0
エイズの原因となるウイルスは感染力が弱い	7.2	0.5

将来ワクチンや治療薬が出来る	30.0	1.4
日本人の性行動がおとなしい	7.2	0.6
正しい知識を持って行動する人が多い	38.1	0.8
エイズ感染の予防知識の普及	31.9	5.1
女性用コンドームが利用できるようになった	6.6	0.5
その他	1.9	0.2
わからない	6.6	0.2

問 4：あなたは、クラミジアや淋病などの性感染症にかかると、エイズにも感染しやすいことを知っていますか。それとも知らないですか。

表 4

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
知っている	31.2	1.0
知らない	61.1	2.1
わからない	7.7	0.5

■エイズ感染に関する意識についてお伺いします。

問 5：あなた自身が、将来、エイズの原因となるウイルスに感染する不安がありますか。それともありませんか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。(単位%)

表 5

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
大変不安がある	1.8	5.1
ある程度不安がある	19.0	40.2
あまり不安はない	33.1	42.4
全く不安はない	42.1	7.6
わからない	4.0	4.5

問 5-1：あなた自身が、将来、エイズの原因となるウイルスに感染する不安があると思う理由は何ですか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表 5-1

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
海外で流行している	14.8	4.8
エイズ患者や感染者が増加している	41.6	23.5

身近にエイズ患者や感染者がいる	2.2	1.0
ウイルスによって広く感染する病気である	26.1	6.3
ワクチンなど予防薬が開発されていない	41.3	16.9
エイズ感染の予防方法が確立していない	26.1	10.0
誰でも感染する可能性がある病気である	44.2	33.6
エイズ感染の予防知識が乏しい	23.5	9.6
対策が十分とられていない	24.7	14.5
その他	4.4	1.4
わからない	1.1	0.6

問5-2：あなた自身が、将来、エイズの原因となるウイルスに感染する不安はないと思う理由は何ですか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表5-2

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
エイズは流行していない	2.1	0.6
エイズ患者や感染者があまり増加していない	2.4	1.0
身近にエイズ患者や感染者がいない	59.6	22.8
感染力が弱い病気である	2.5	2.9
治療薬が開発されている	3.8	0.8
エイズ感染の予防方法が確立している	4.4	3.2
特定の人々の病気だと思う	29.8	5.0
エイズ感染の予防知識がある	21.9	19.6
対策が十分とられている	8.1	5.6
その他	4.9	3.4
わからない	4.1	5.1

問6：エイズの原因となるウイルスの感染について、以下の1から5の行為について該当するものに一つ○をつけてください。

表6

	知っている		知らない		わからない	
	H 12(内閣府)	H 16(北星大)	H 12(内閣府)	H 16(北星大)	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
患者や感染者との性行為	96.4	4.3	2.1	0.0	1.6	4.5
患者や感染者とのかみそりや歯ブラシの共用	61.2	2.7	32.2	0.8	6.6	1
患者や感染者との注射器の回し打ち	88.8	4.0	7.3	0.2	3.8	0.3
患者や感染者の授乳	51.5	1.6	36.7	2.1	11.8	0.8
患者や感染者の出産	68.4	3.1	22.3	0.8	9.3	0.6

問7：万一、仮にあなたがエイズの原因となるウイルスに感染したかもしれないと思った場合どうだと思いますか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。

表7

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
医院や病院で相談する	36.5	35.5
保健所などの相談窓口で相談する	10.9	4.8
医院や病院で検査を受ける	33.0	30.7
保健所で検査を受ける	13.8	17.2
民間協力団体(NGO・ボランティア)の相談窓口で相談する	1.1	1.4
なにもしない	1.5	0.6
その他	0.3	0.5
わからない	2.9	1.9

問8：万一、仮にあなたの配偶者がエイズの原因となるウイルスに感染したら、あなたはどうだと思いますか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。

表8

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
従来と同様の生活をする	54.9	49.7
同居するが生活を区分する	9.8	13.7
別居する	4.5	1.1
離婚する	2.5	1.8
その他	1.1	3.5
わからない	17.3	29.6

問9：万一、仮にあなたの身近な人や友人がエイズの原因となるウイルスに感染したら、あなたはどうだと思いますか。あなたが思うもの一つに○をつけてください (結果は p 105 に表示)。

表 9

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
従来と同様のつきあいをする	59.5	73.8
付き合いを減らす	24.3	7.1
付き合いをやめる	5.6	0.5
その他	0.3	2.3
わからない	10.2	15.6

問 10：仮にあなたの職場で、エイズ患者やエイズの原因となるウイルスの感染者と一緒に働くことについて、あなたはどう思いますか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。

表 10

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
好ましい	10.9	16.6
どちらかといえば好ましい	28.7	23.8
どちらかといえば好ましくない	34.9	27.5
好ましくない	10.4	4.2
わからない	15.2	26.8

問 10-1：あなたが、あなたの職場で、エイズ患者やエイズの原因となるウイルスの感染者と一緒に働くことについて、好ましいと思う理由は何ですか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表 10-1

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
働く権利がある	60.7	34.1
差別はよくない	65.2	29.1
感染する可能性が少ない	37.3	21.1
思いやりの気持ちが養われる	15.3	4.0
その他	0.5	3.1
わからない	0.5	0.3

問 10-2：あなたが、あなたの職場で、エイズ患者やエイズの原因となるウイルスの感染者と一緒に働くことについて、好ましくないと思う理由は何ですか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表 10-2

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
気遣いが必要になる	65.9	23.2

負担が増える	15.1	5.1
感染する可能性がある	34.2	12.5
職場環境に影響がでる	36.2	10.0
その他	0.4	1.8
わからない	1.3	0.8

問 11：「エイズ患者やエイズの原因となるウイルスの感染者に対する社会的偏見や差別があってはならない」という見方に、あなたは同感しますか、それとも同感しませんか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。

表 11

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
同感する	53.6	15.9
どちらかといえば同感する	30.5	8.4
どちらかといえば同感しない	7.1	0.2
同感しない	2.8	0.3
その他	0.5	0.5
わからない	5.6	1.6

問 12：あなたは、エイズの感染予防のためにコンドームを使用していますか。それとも使用していませんか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。

表 12

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
常に使用している	17.1	41.2
時々使用している	9.6	13.5
あまり使用していない	6.1	1.9
使用していない	43.8	4.8
わからない	23.3	35.7

問 12-1：あなたが、エイズの感染予防のためにコンドームを使用しないのはどうしてですか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表 12-1

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
購入しにくい	2.0	0.8
使用したくない	7.0	1.8
相手が使用を嫌う	1.6	1.8

エイズ感染の予防に有効であることを知らない	1.3	0.0
相手が感染していないので使用する必要がない	69.4	1.8
その他	18.1	2.4
わからない	6.3	0.3

■エイズ対策に関する意識についてお伺いします。

問13：あなたは、エイズに関するどのような情報が欲しいですか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表13

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
病気の内容	30.8	40.0
感染の状況	33.6	42.3
感染の予防方法	43.1	52.6
治療方法	36.7	55.0
相談窓口	20.0	30.1
エイズ検査	20.5	44.7
医療機関	18.5	25.1
民間協力団体(NGO・ボランティアの活動)	7.7	10.6
エイズに関する研究	21.8	21.4
エイズ対策	24.8	34.9
その他	2.0	0.6
わからない	10.6	3.4

問14：あなたは、エイズに関する情報を得るには、どのような方法がよいと思いますか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表14

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
テレビによるお知らせ	73.4	64.0
ラジオによるお知らせ	15.2	10.0
新聞によるお知らせ	49.1	33.0
本や雑誌によるお知らせ	23.1	40.8
広報誌(紙)	19.8	17.0
ポスター	12.7	22.7
パンフレット	13.0	21.2
インターネットによるお知らせ	15.6	37.0
講演や集会	13.1	26.4
学校での教育	49.8	59.6

民間協力団体(NGO・ボランティアの活動)	7.0	9.8
その他	0.4	0.8
わからない	2.5	3.1

問15：エイズ検査は、全国の保健所において、匿名で、また、無料で受けることができますが、あなたは、このことを知っていますか。それとも知りませんか。あなたが思うもの一つに○をつけてください。

表15

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
匿名で受けることができることを知っている	27.1	14.5
無料で受けることができることを知っている	5.1	7.2
匿名と無料で受けることができることを知っている	21.8	17.8
知らない	44.4	57.6
わからない	1.6	1.4

問16：あなたは、保健所におけるエイズ検査について、どのような要望がありますか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表16

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
保健所のある場所の周知	12.4	41.5
プライバシーの保護	64.8	80.1
受付時間の延長	13.4	15.0
検査日の増加	16.3	19.6
夜間検査の実施	18.9	25.1
休日検査の実施	23.8	24.3
適切な対応	31.5	65.9
十分な説明	39.1	70.9
適切な医療機関の情報提供	23.5	45.0
その他	1.4	1.0
わからない	10.3	4.5

■エイズ対策に関する政府に対する要望についてお伺いします。

問17：あなたは、エイズ対策に関して、日本が果たすべき国際的役割はどのようなこ

エイズ予防に関する大学生の問題意識の調査

とだと思いますか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表 17

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
民間協力団体(NGO・ボランティア)の海外活動への支援	30.8	37.3
医療専門家等の海外派遣	22.5	35.5
治療薬・治療法等の研究を通じた国際的協力	30.1	64.6
日本国内に在住する外国人の患者・感染者への支援	52.6	42.9
海外に在住する患者・感染者への情報提供などの支援	30.1	27.8
エイズ対策のための国際的なネットワークづくり	19.2	52.8
適切な対応	36.5	43.2
特にない	6.7	0.5
その他	0.4	2.1
わからない	8.1	5.5

問 18：あなたは、エイズ対策に関して、政府に力を入れて欲しい対策はどのようなことですか。あなたが思うものすべてに○をつけてください。

表 18

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
エイズに感染する原因の究明	38.4	42.0
エイズに関する正確な情報提供	42.5	60.9
エイズ感染予防体制の確立	39.4	55.1
病院などの医療体制の整備・充実	44.6	50.5
医師などの診療体制の充実	26.2	34.6
予防ワクチンや治療薬の研究開発	57.9	65.1
諸外国との連携強化	17.7	25.1
エイズ患者に対する偏見や差別の撤廃	27.6	53.5
エイズ感染予防のための普及啓発	24.2	34.4
エイズ感染予防のための教育	46.0	58.5
国や民間協力団体(NGO・ボランティア)など関係機関の連携強化	15.0	17.4
特にない	3.8	1.1
その他	0.6	0.8
わからない	3.6	2.4

■あなた自身のことについてお伺いします。

問 19：あなたの性別はどちらですか。

表 19

	H 12 (内閣府)	H 16 (北星大)
男 性	45.3	28.8
女 性	54.7	65.9

問 20：あなたの年齢は満でおいくつですか。

表 20

年 齢	H 12 (内閣府)	H 16 (北星大)
15～19 歳	7.0	46.8
20～24 歳	4.3	46.6
25～29 歳	6.6	0.6
30～34 歳	7.3	0.2
35～39 歳	8.2	0.3
40～44 歳	8.5	0.2
45～49 歳	8.9	0.2
50～54 歳	10.8	
55～59 歳	10.6	
60～64 歳	9.0	
65～69 歳	8.9	
70～74 歳	5.7	
75～79 歳	2.4	
80～84 歳	1.9	
85～89 歳		

問 21：あなたの所属する学科の一つ○をつけてください。

表 21

	H 16(北星大)
文学部・英文学科	4.8
文学部・心理応用コミュニケーション学科	30.4
経済学部・経済学科	11.6
経済学部・経営情報学科	10.3
経済学部・経済法学科	1.9
社会福祉学部・福祉計画学科	0.6
社会福祉学部・福祉臨床学科	15.3
社会福祉学部・福祉心理学科	15.9
短期大学部・英文学科	調査なし
短期大学部・生活創造学科	4.0

問 22：あなたは、外国に行ったことがありますか、あなたが思うもの一つに○をつけ

てください。

表 22

	H 12(内閣府)	H 16(北星大)
外国(1つの国)に3か月以上住んだことがある	2.4	1.4
外国に行ったことがある	44.6	31.5
外国に行ったことはない	53.1	55.0

## 2. 項目ごとの結果内容の分析

### (1) エイズに関する認識

エイズという病気についての認知はほとんどの学生があると答えており(表1参照), 6割以上が関心を持っていて, 内閣府の調査と同様の結果が出ている(表2参照)。エイズの増加についても, 同じように9割近くが増加すると予想しており(表3参照), 増加するのは日本人の性行動が開放的になっているのが主な原因である(75%)と考えていて, これも内閣府と同様の結果が出ている(表3-1参照)。そして, 増加するという理由において2番目に多いのが, エイズ感染の予防知識が乏しいという項目(57.7%)であるが, 2001年時点での内閣府の調査では, 海外との交流の増加や医療的な不備が上位に入っており, エイズ感染増加が感染予防行動の問題点に焦点化されてきていると認識されていることが推察される。また, 性感染症とエイズの関係について知っているのは, 内閣府の調査時と同様, 3割弱であった(表4参照)。

### (2) エイズ感染に関する意識について

エイズ・ウイルスへの感染の不安は内閣府の調査時に比べて高まっており(45.3%), エイズ感染への不安について尋ねた質問でも, エイズの知識や予防に対する認識が進んだ反面, 誰でも感染する可能性がある病気だという認識(73.6%)や, エイズ患者や感染者の増加(51.4%)が挙げられている(表5, 表5-1参照)。また, 将来的にもエイズに感染する不安はないと答えた者(50%)は, その主な理由として, 身近にエイズ患者や感染者が

いないことを挙げている者が一番多く(46.7%), この点は内閣府の調査と同様である。さらに, エイズ感染の予防知識がある(40.1%)と自信を持っている者も多く, この点は内閣府の調査(21.9%)と異なる点である(表5-2参照)。

日常生活におけるエイズ感染経路についての知識は, 内容によって半数~9割の学生が理解しており(表6), 感染した場合の相談や検査についても, 病院や保健所を利用する者が8割近くを占め, 総理府の調査時とほぼ同じ状況であった(表7)。近親者のエイズ感染に関する対処については, 配偶者の場合, 従来と同様の生活(49.7%)を維持し, 身近な人や友人の場合, 従来同様のつきあい(73.8%)ををするとしており, 完全に生活を分離したり, 付き合いをやめるといった人が1~3割近く存在した内閣府の調査時に比べると, エイズ患者に対する排他性の意識が減少していることがうかがわれる(表8, 9参照)。職場での労働についても, 内閣府の調査時に比べて, エイズ患者との共生, 協働の意思が感じられる結果となった(表10~10-2参照)。実際に, 「エイズ患者に対する社会的偏見や差別があってはならない」という見方に同感する者が, 内閣府の調査時には8割程度であったのが, 今回は9割となっている(表11参照)。また, 性交渉におけるコンドームの使用(常に使用41.2%, 時々使用13.5%)については6割弱の者が配慮しており, 内閣府の調査時にはあわせて27%程度であったことに比べると使用が進んでいると考えられる(表12参照)。

### (3) エイズ対策に関する意識について

エイズはこの10数年の間に治療方法も進み, 完治はできないものの服薬によって発症がかなり抑えられるようになってきた。そのような状況を反映してか, エイズに関して必要とされる情報も感染状況(46.8%)や予防



方法 (58.0%) に対するものが多いが、治療方法についての情報 (60.6%) が内閣府の調査に比べて2倍近くに増加している(表13参照)。また、エイズに関する情報収集の方法でよいと思っているのは、テレビが一番多かった(64.0%)が、本や雑誌(41.5%)、インターネット (37.0%)、学校教育 (59.6%) で得る方法がよいと考えている者もいて、中でも内閣府の調査時に比較して、インターネットによる情報収集手段が増加しているのが特徴的であった(表14参照)。

また、エイズ検査が全国の保健所で匿名かつ無料で受けられることはあまり知られておらず(57.6%)、この点は、内閣府の調査時の方が周知度が高かった(知らない者が44.4%であった)(表15参照)。エイズ検査に関する要望として、プライバシーの保護 (80.1%)、適切な対応 (66.1%)、十分な説明 (70.9%)、保健所の情報(41.5%)、医療機関の情報提供 (45.0%)などが特に挙げられていたが、これらの項目は内閣府の調査時とあまり差がないようであった(表16参照)。

#### (4) エイズ対策に関する政府に対する要望

日本が果たすべき役割として、治療法・治療薬を通じた国際的な協力(64.8%)、エイズ対策のための国際的なネットワーク作り(52.4%)などが内閣府の調査時に比べて増加しており(表17参照)、政府に要望する対策として、エイズに関する正確な情報提供(60.9%)、予防ワクチンや治療薬の研究開発(65.1%)、エイズ感染予防のための教育(58.5%)が際立っていた(表18参照)。

## IV. 今後の展望

今回の本学の学生を対象にした調査を通して、全体的には、エイズに対する恐怖や不安意識よりも、エイズに積極的に対処していくとする傾向が明らかになった。エイズ患者

に対する積極的な支援や共生の意思も明らかになり、今後のエイズ対策として、エイズに関する正確な情報提供、医薬品の研究、エイズ感染予防のための教育などが挙げられ、対策への方向性も明白であると思われる。しかしながら、調査対象が大学生ということもあり、現実的な回答よりも、より理想的な回答を行った可能性もある。男性の方が女性に比べて有意にエイズに対して否定的な態度を有していたという報告<sup>(8)</sup>もあり、回答者の7割が女子学生であった今回の結果にもそのような傾向が出ているのかもしれない。

それでも、エイズが広がっている背景に、エイズへの警戒心が希薄化しており、エイズの性感染症としての側面の認識不足や、性行為の低年齢化とコンドーム使用の減少傾向などからエイズに限らない性感染症の爆発的な流行を危惧する指摘もあり<sup>(9)</sup>、今回の結果に見られたエイズ対策に関する明白な態度は教育現場において、今後も維持、強化する必要があると考えられる。

調査2カ月後に本学においてシンポジウムが行われ、3人のシンポジストにより、アメリカ、日本、北海道におけるエイズの感染および発症の実態と予防対策に関する現状やその将来性などについての情報提供が行われた。シンポジウム後のアンケートでは、エイズに関する知識を深めるのに役立ったかという質問に対して、120名(このうち北星学園大生は108名)のうち9割が役に立ったと答えていた(とても役に立った:62.5%、少し役に立った:27.5%)。そして、そのうち半数近くがシンポジウムの内容を参考にして何か行動を変えようと思ったと回答していた(少し変えようと思った:43.3%、大幅に変えようと思った:4.2%)。高校生を対象にした予防介入においても、モデル授業(集団レベル)による介入が、知識、コンドーム使用意図・行動を上昇させること、地域の単位人口あたりのキャンペーン密度に量一反応的に知識レ

ベルが高まる<sup>(10)</sup>ことが示されており、今回もエイズに対する意識調査を行い、多様な視点による啓発的シンポジウムを開催したことが、学生にとっては非常に大きな刺激になったと思われるが、学生たちの日常生活においてその刺激が常に持続され、将来的な性的行動に影響を与えるためには、今後もこのような試み(意識調査や予防のための啓発プログラム)が定期的に行われる必要がある。

なお、この論文作成後に厚生労働省によって、2004年にHIV感染者とAIDS患者の累計が1万人を突破したとの報告が行われた。「感染者は横ばい、患者は減少」という多くの先進国とは対照的に、日本においては一方的な増加が明らかとなり、現在厚労省はエイズ予防指針の見直しを進めている。今や、エイズ予防に対する意識の希薄化を防ぐための予防教育の必要性はさらに差し迫った問題<sup>(11)</sup>となってきている。

## V. 謝 辞

本論文を作成するに当たって、調査、シンポジウム、学園祭での展示とさまざまな段階で、数多くの人々の援助や助言をいただいた。調査や資料整理、学祭展示の段階でお世話になった本学の学生諸君、シンポジウムや学祭展示の段階でご尽力いただいた学生課職員の皆さん、シンポジストとして貴重な示唆をいただいた鬼塚直樹(UCSFエイズ予防研究センター)、大野稔子(北海道大学病院看護部)、最上いくみ(札幌医科大学附属病院看護部)、北澤一利(北海道教育大学釧路校)の各氏、そのすべての段階で協力いただいた田辺睦子氏に感謝申し上げる。

### [引用文献]

- (1) 塩川優一(2004)私の「日本エイズ史」,日本評論社,東京.
- (2) 前掲書(1).

- (3) エイズ会議研究会(2005)エイズ終わりなき夏,連合出版,東京.
- (4) 厚生労働省エイズ動向委員会(2004)平成15年エイズ発生動向.  
<http://api-net.jfap.or.jp/mhw/survey/03nenpo/gaiyou.htm>
- (5) 木原正博他(2001)HIV感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究.厚生科学研究費補助金(エイズ対策事業)平成13年度総括研究報告書.  
<http://www.acc.go.jp/kenkyu/ekigaku/2002ekigaku/01.htm>
- (6) 西和久・日高庸晴(2002)エイズ問題の解決に向けた学際的アプローチ:人文科学・社会科学・行動科学系領域の学術的連携を目指して.日本エイズ学会誌,4:62-65.
- (7) 内閣府大臣官房政府広報室(2001)エイズに関する世論調査.  
<http://www.op.cao.go.jp/survey/h12/h12-aids/index.html>
- (8) 西和久(2000)若者のエイズに対する態度構造についての調査研究.日本エイズ学会誌,2:177-183.
- (9) 朝日新聞論説(2005)危険はあなたのそばに—エイズ拡大—.朝日新聞朝刊,2005/3/7.
- (10) 木原正博他(2002)HIV感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究.厚生科学研究費補助金(エイズ対策事業)平成14年度総括研究報告書.  
<http://www.acc.go.jp/kenkyu/ekigaku/2003ekigaku/007.htm>
- (11) 朝日新聞論説(2005)エイズ静かな拡大—感染・患者1万人—.朝日新聞朝刊,2005/5/16.

[Abstract]

Awareness and Attitudes of  
Hokusei Gakuen University Students Towards HIV/AIDS:  
For an Effective Educational HIV/AIDS program

Takehiko TANABE  
Toshio SHIBATA  
Sumiko OSHIMA

This research investigates the awareness and attitudes of Hokusei Gakuen University students towards HIV/AIDS, and discusses an effective HIV/AIDS education program. A questionnaire was conducted with 622 Hokusei Gakuen University students during July 12-17, 2004, and the results were compared with “The Public Opinion about HIV/AIDS” survey by the Cabinet Office in 2000. Similar to the 2000 survey, many Hokusei students showed interest in HIV/AIDS issues, and most students anticipated an increase of HIV/AIDS patients in the future. On the other hand, compared to the 2000 survey, in which a significant number of people do not want to keep company with friend or continue to live together with their spouse if they have HIV/AIDS, the Hokusei students didn’t feel a terror or anxiety for HIV/AIDS, and they showed a willingness to support HIV/AIDS friends and spouses. The survey also revealed that the students want to obtain correct information about the current domestic condition of the infection, and about the effective methods to prevent HIV/AIDS. Two months after the survey, a symposium on HIV/AIDS was held for the students. About 90% of the students answered that they would change their daily life style to prevent HIV/AIDS. This indicates that school educational program like this are effective for raising student awareness and changing attitudes towards HIV/AIDS.